HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ウィズコロナ時代の「ゆるい研究広報」 ： 価値再創造による広報戦略
Author(s)	森岡, 和子; 澤田, 真理子
Description	RA協議会第6回年次大会 ： 躍動するURAが組織を変革する～連携、協働、そして価値連鎖へ～. 2020年9月17日-9月18日. 主催：リサーチ・アドミニストレーター協議会. オンライン開催
Issue Date	2020-09-17
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96176
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	2020RA_3-4_P-2-10_poster_c.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ウィズコロナ時代の「ゆるい研究広報」ー価値再創造による広報戦略

北海道大学大学院文学研究院・研究推進室
○ 森岡 和子　澤田 真理子

★ポスターPDFのダウンロードは【こちら】をクリック!!

［背景］

コロナ禍によりいわゆる3蜜を避けるために、従来のイベントの代替として、オンラインイベントが激増している。確かに、オンラインイベントはコロナ感染対策に有効な代替手段であるばかりではなく、従来、移動距離の関係で参加を見送っていた関心層にもリーチでき、新たな可能性をもった非常に有効な手段である。

一方で、オンライン疲れという現象も起こっている中、乱立するイベントの中から選ばれる質の高いコンテンツを数多く制作するには、多大な労力を要する。研究広報の主役である研究者は、オンライン授業や大学におけるコロナ対策に多くの時間をとられて疲弊しており、研究広報にまで目を向ける余裕がないのが現状である。

収束のみえないウィズコロナ状況下で、研究者が研究広報にかける負担をできるだけ軽減し、なおかつ、質の高い研究広報を発信し続ける広報戦略が求められている。この課題にURAが果たせる役割を考えたい。

［目的］

ウィズコロナ時代の新たな広報戦略として**「ゆるい研究広報」**を提案する。「ゆるい研究広報」とは、オンラインイベントのみに頼るのではなく、

- 研究者に大きな負担をかけないこと
- 発信者および受信者ともども、広報コンテンツに関わる人が気楽に楽しめること
- 研究のおもしろさ、研究者および組織の魅力が伝わること

を条件に、これまで蓄積してきたコンテンツを用いて、切り口を変えて再構成し、新たな価値創造につなげるという試みである。以下、キーワードとして、

（1）伝える媒体を変える　**（2）ターゲットを変える**
（3）内容を再構成する　**（4）積み重ねによる効果**
（5）経時変化による新たな研究アピール　**（6）プロセスの可視化**

を挙げ、事例紹介とともに考察をおこなう。

Keyword 1　伝える媒体を変える

WEBコンテンツ→SNSへ　波及効果を狙いWEBに再誘導

★北大文学研究院**教員紹介WEB特設コンテンツ**
Lab.letters研究室からのメッセージ
文学研究院の各教員の研究と教育方針を紹介する記事

★Twitter、Facebookにて、再特集する。
写真・内容の一部とウェブへのリンクを紹介

WEBコンテンツは、関心を持った人がわざわざ探して見に行かなければない
SNSはもう少し広い関心層にリーチできる。アクセスした人からの波及効果も狙える。WEBに誘導することで、より深く研究教育内容を伝えることができる。

WEB ※1

Facebook ※2

Twitter ※3

Keyword 2　ターゲットを変える

地域限定コンテンツ→広域発信

★「書香の森」企画展示 ※4・※5
実物を見に行けなくても**WEB・SNSでバーチャル鑑賞**
文学研究院エントランスホールにある「書香の森」では、教員の著書、絵画等の美術作品を展示。特集図書展示、作品展示は、WEBにて詳細を紹介。
SNSからもアクセス可能。

★北大人文学カフェ
地域限定イベントを遠方から楽しむ
地域住民向けのトークイベントであり、案内や報告はWEBやSNSで実施していた。今年度は、**オンライン・カフェ**を実施予定。回数を減らす一方で、過去25回の**総集編動画を制作中、WEB特設コンテンツ**（WEB人文学カフェ）を企画。遠方の人にも、カフェの雰囲気と詳しい内容を発信可能に。

Keyword 3　内容を再構成する

過去の実施イベント→再構成し別コンテンツへ

★WEB人文学カフェ ※6
トークのエッセンスをWEB読み物として再構成する

Keyword 4　積み重ねによる効果

積み重ね＋連動企画＝広報効果

回を重ねて実施しているイベントは、**集めてまとめる**だけも広報**コンテンツとして価値**があり、**連動企画**が立てやすい

★人文学カフェ
25回分を集めてビジュアル化※7
情報整理すると、組織の多彩な研究内容が伝わる

連動企画
イベント＋WEB＋SNS＋動画＋企画展示などを積み重ねることで、**多角的広報展開**が可能

Keyword 5　経時変化による新たな研究アピール

現在進行形のホットな話題
→時を経ることで研究動向の変化、成果物の広報

★WEB人文学カフェ
数年後に研究成果をまとめた著書出版
研究動向の変化を紹介

話し手からもう一言

この当時から準備していた書籍ができあがりました。一般向けに編集してありますので，どうぞご覧下さい。

美しさと魅力の心理
三浦　佳世・河原　純一郎 編著
出版年月日　2019年10月10日
ISBN　9784623086597

書香の森　出版社のページ

マスクに関する研究は，カフェでお話しした頃とは世界が大きく変わりました。
現在，マスクをするのが当たり前になっており，不健康効果とは異なる要素が加わっている可能性があります。わたくしの研究室では，こうした点からコロナウィルス流行後の世界でのマスク研究を精力的に展開しています。
関心のある学生さんにも加わっていただければと思っています。

（2020年7月　記）

コロナ禍により、マスクに関する研究が変化した。当時とは異なる研究展開をアピールする機会になる。※8

成果物として出版された新著を関連づけて紹介できる。※8

Keyword 6　プロセスの可視化（広報評価）

企画準備過程の可視化→新たな研究広報・評価の可能性

★北大総合博物館企画展示
（学芸員リカレント教育プログラム）
イベント評価は集客数のみではない。展示の準備状況や、準備過程で考えたこと、わかったこと、そのプロセスを可視化することが、別視点からの研究広報となる。
コロナ禍で、実習・調査・展示準備がままならない状況下、オンラインで進める展示準備の過程をWEBフォトエッセイ※9やSNS※10を活用しながら可視化する。最終的にはプロセス評価へとつなげていく。

［まとめと考察～これからの研究広報に向けて］

★「ゆるい研究広報」に必要なもの
- 発想の転換
- 記録の重要さ
- 継続は力なり（方法や形式は変化しても）
- 資料、記録の系統的保存（人が変わっても）

★「ゆるい研究広報」のメリット
- 研究者にほとんど負担をかけない
- 費用がほとんどかからない

★URAの強みが活きるところ
- 組織全体の研究力を**俯瞰する総合力**と、それらを**バランスよく可視化する構成力**
- 価値再創造した広報コンテンツを活用し、**組織の研究力アピール、プレゼンス向上、良質な学生確保、外部資金獲得や共同研究の呼び水**等、次のアクションにつなげられる

★これからの研究広報に向けて
- コンテンツの再構成により、新たな価値創造が可能に
- ロングテールかつ多くのステークホルダーに向けた多方面な広報という新たな評価軸に注目

［参考資料URL］

QRコードを読み取るか、QRコード下の文字をクリックしてアクセスしてください。

※1 Lab.letters メッセージ
※2 北大文学研究院 Facebook
※3 北大文学部 Twitter
※4 書香の森 特集図書展示
※5 書香の森 特集絵画展示
※6 Web人文学カフェ 特集記事例
※7 人文学カフェ一覧
※8 経時変化アピール
※9 フォトエッセイ
※10 プロセス可視化 SNS

お問い合わせ：北大文学研究院研究推進室 森岡和子 morioka@let.hokudai.ac.jp　名刺→